

「『どういう風に工夫するかを考えるのが楽しかった。』
旦那さまと、幸せな時間が過ごせたと話します。」



Come Home Story

ご入居後の
お宅訪問
No.035
カムホームストーリー
高知市・Kさま邸
竣工:2011年11月
設計担当:福井 美絵



「自分のこのように寄り添ってくれたのがうれしかった」

学生時代から「建築士になりたい」という夢を抱いていた奥さま。旦那さまと結婚後、たくさんの展示場をまわり何度も夢見るわが家の図面を引きました。「他と違って、一番印象が強かった」という自然素材でつくる世界に一つだけの家。タイセイホームの家づくりに共感し、何度も見学会に足を運ぶようになりました。

官舎住まいが長く、たびたび引っ越しを繰り返していたというKさまご一家。「定年後に」と思っていた家づくりでしたが、何度行っても快く対応してくれたスタッフに「建てたあともずっとお付き合いができそう」と感じ、お子さんが小学校に上がる前にとマイホームを決意しました。

将来、旦那さまの体調が心配だったという奥さまは、多額のローンを抱えることに大きな不安を抱えていました。他の住宅会社では「いくらでも借りられますよ」と言われたことも、岡村（お客さまサポーター）は「このお家で、この予算だったら大丈夫です」と、自分のこのように寄り添ってくれたことがうれしかったと話します。

「この、ちょっとしたことですごく楽になりました」

家族の暮らし、老後の夫婦二人の暮らしをじっくりと考えた奥さまは、介護がしやすいようにという思いから、段差のない平屋を選びました。特にこだわった外観は、窪川にある奥さまの好きな和菓子屋さんをイメージした和のデザイン。ねずみ色の瓦屋根に、ガラガラと開く昔懐かしい玄関引き戸、足元をやさしく灯してくれる照明、季節ごとに色を変える鹿威しを囲んだ植栽スペースは、訪れる人まで心穏やかにしてくれます。

「介護部屋」と呼ぶ洋室は、もし寝たきりになっても家族がそばにいられるように、キッチンのすぐ横に配置。3枚の建具を開けるとどちらからも様子がうかがえて、家事をしながらでも声が届く距離が安心です。

「あんまり広くないので…」という洗面脱衣所では、以前の住まいから「あったらいいな」と思っていた作業スペースを、収納棚の扉で代用。そうじの時の物置代わりに、洗濯前の染み抜き台に、無駄なスペースをつくらずに有効活用できるアイデアです。「この、ちょっとしたことですごく楽になりました」と奥さま。予算の中ですべてが叶わなくても、「どういう風に工夫するかを考えるのが楽しかった」と、思い入れ深い家づくりを語ります。

「えい家やなあ、建てて良かったなあって、いつもつぶやいてました」

使い勝手では、「強いて言うならコンセントぐらい」と奥さま。冬はそうじの時、温まった部屋を開けてとらないといけないことから、部屋の外にもう少しとっておいたら良かったと振り返ります。

自分たちだけの家ができたおかげで、環境のストレスも大きく変わりました。大きな道路から少し入ったところ、気持ちのいい風が吹く静かな場所で、お嬢さんは大好きなピアノを思い切り弾けるようになり、絵を描く趣味をお持ちの奥さまは明るいリビングでのんびり没頭。穏やかな日々を過ごしています。「憧れだったソファ」を置いたリビングでは、ダイニングセットではなく、座卓を構えて素肌で天然木を感じられる「座って暮らす」居間になりました。フローリングの床だとべたついてどうしても汚れが気になってしまうという奥さまでしたが、夏場でもサラサラで自然に馴染んでくる床が「一番心地いい」と笑顔を覗かせます。

突然訪れた旦那さまの死から約2年。住み始めてからは4年2ヶ月が経ち、さまざまな時間をこの家と共に過ごしてきました。奥さまは「定年まで待たなくて良かった」とほっとした様子。将来のことをしっかりと見据えたうえで準備をしていたおかげで、「えい家やなあ」と話していた旦那さまと、幸せな時間が過ごせたと話します。